

西川長夫名誉教授 略歴・著作目録

略 歴

1934年5月1日	平安北道江界郡江界邑石古洞に生まれる
1945年8月15日	平安南道鎮南浦府で敗戦を迎え、約10ヶ月間の抑留生活を送る
1954年3月	岐阜市立長良高等学校卒業
1954年4月	京都大学文学部フランス語学フランス文学科入学
1960年3月	京都大学文学部フランス語学フランス文学科卒業 卒業論文『スタンダールにおけるボナパルチズム』
1960年4月	京都大学大学院文学研究科修士課程フランス語学フランス文学専攻入学
1962年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程フランス語学フランス文学専攻修了 修士論文『パンセの時代——スタンダール文学理論の形成』
1962年4月	京都大学大学院文学研究科博士課程フランス語学フランス文学専攻入学
1965年3月	京都大学大学院文学研究科博士課程フランス語学フランス文学専攻単位取得退学
1965年4月	京都大学文学部フランス語学フランス文学科助手
1966年10月	立命館大学文学部専任講師
1967年10月	ソルボンヌおよびオートゼチュードへ留学（～1969年9月）
1969年10月	立命館大学文学部助教授
1974年4月	立命館大学文学部教授
1975年10月	パリ第三大学東洋語東洋文化研究所講師（～1977年9月）
1978年11月	『クラウン仏和辞典』により毎日出版文化賞受賞
1983年7月	モンリオール大学客員教授（～1985年4月）
1988年4月	立命館大学国際関係学部教授
1990年7月	学校法人立命館評議員（～1993年7月）
1991年3月23日	『フランスの近代とボナパルティズム』により 文学博士（立命館大学）乙第111号 取得
1993年4月	立命館大学国際言語文化研究所所長（～1995年3月）
1996年7月	学校法人立命館評議員（～1999年7月）
1997年4月	立命館大学国際言語文化研究所所長（～2000年3月）
2000年4月	立命館大学名誉教授
2000年4月	立命館大学特任教授
2000年6月	『フランスの解体？ もうひとつの国民国家論』により 第17回渋沢・クローデル賞 現代フランス・エッセー賞受賞
2003年4月	立命館大学大学院先端総合学術研究科教授
2008年3月31日	立命館大学大学院先端総合学術研究科教授 任期満了退職

著作目録

〈凡例〉

本目録は、西川長夫先生の著作（翻訳を含む）のうち、2008年12月現在で入手し得たものについて、年次ごとに発行日順で記載したものである。発行年月日は奥付の記載に拠っている。

著書および雑誌等所収著作における書誌事項記載の凡例は次の通り。

著書（単著・共著・編著・訳書も含む）の場合

『著書表題』

発行所名 発行年月日 共著・編著の場合は共著者または共編者名（ただし共著者多数の場合は編者名のみ）共著等で分担執筆箇所が明らかな場合は「分担執筆箇所表題」該当ページ（注は括弧で括った）

* 翻訳は原著者名を表題の前に明記し、共訳者がいる場合は発行年月日の後に明記した。また、解説等がある場合は「解説等表題」該当ページを記した。

雑誌等所収著作（翻訳も含む）の場合

「著作表題」

『所収紙誌表題』発行所名 巻号 発行年月日 該当ページ 共著の場合は共著者名（ただし共著者多数の場合は共著とのみ明記）「分担執筆箇所表題」該当ページ（注は括弧で括った）

* 翻訳は原著者名を表題の前に記した。

ISBN・ISSN・価格・函帯等の情報は省略した。

国内・海外の文献を区別せず上記の様式で統一した。

共著者名・共訳者名あるいは共著と明示されていないものは、全て単著・単訳である。

単著・単訳書には◎を、その他の著書（共著・編著・共訳書）には○印を付けてある。

本目録作成に当たっては、花森重行氏作成による「西川長夫教授略歴・主要著作目録」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 12巻3号 2000年3月19日 ppi-xiv

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/voll2-3/mokuroku.pdf>) を参照し教示を受けた。

【1960年】

「スタンダールのボナパルチスム」

『学園評論』学園評論社 復刊第1号 1960年4月1日 pp95-110（正誤表同号所収）

「スタンダールのナポレオン I I respecta un seul homme: Napoléon. [Essais d'Autobiographie (v)]」

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第4号 1960年7月10日 pp41-51

「作品の発見 「アルマン」における性的不能の解釈について」

『視界』あぼろん社 第1巻第2号 1960年11月5日 pp2-18

【1961年】

「疑問文の諸形式—シナリオによる考察—」

『フランス語研究』大修館書店 No.27 1961年11月12日 pp12-16

「ロマン主義時代における民衆とスタンダールの民衆——フェランテ・パラ論——」

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第5号 1961年12月15日 pp26-55 西川長夫
/ 西川祐子著

【1962年】

「深沢文学批判の批判」

『思想の科学』思想の科学社 通巻44号 1962年11月1日 pp38-49

「後退の季節 大江健三郎の叫び声をめぐって」

『京都大学新聞』京都大学新聞社 第1131号 1962年11月19日 p6

「スタンダールの「イタリア絵画史」(1)」

『FRANCIA』第6号 1962年12月28日 pp1-16

【1963年】

「STENDHALの文学理論の基礎」

『フランス語フランス文学研究』日本フランス語フランス文学会 No2 1963年 p53

「ラクロ試論」

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第7号 1963年12月28日 pp28-44

【1964年】

「エルヴェシウスの「人間学」の構造」

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第8号 1964年12月28日 pp38-53

【1965年】

○マドレーヌ・リフォ 『解放戦争の20年』

理論社 1965年11月 西川長夫/佐々木康之訳 「訳者あとがき」 pp301-305 (共著)

「ヴィクトル・ユゴーの詩におけるボナパルチスム——十九世紀ナショナリズムと文学——」

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第9号 1965年12月28日 pp39-56

【1966年】

「サルトル氏の講演を聞いて 日本知識人に対する有効性の問題 ある種の違和感の「異議申立て」——曖昧でえたいのしれぬ日本的状況——」

『京都大学新聞』京都大学新聞社 第1301号 1966年10月3日 p4

【1967年】

『書評と紹介』『十八世紀における幸福の観念』

『FRANCIA』京都大学フランス文学研究室 第10号 1967年1月7日 pp100-111

「J・ブイヨン著 現象学的文学論—時間と小説— ドグマテイックな内在批評「視点」と「想像力」の関係を明確に提示」

『京都大学新聞』京都大学新聞社 第1313号 1967年1月9日 p2

「ヴァンセンヌ体験の語るもの——ルソー研究ノート (1) ——」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第263号 1967年5月25日 pp1-19

「『ヴァンセンヌ体験』再論——ルソー研究ノート (2) ——」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第268号 1967年10月25日 pp42-61

○『文学理論の研究』

岩波書店 1967年12月20日 桑原武夫編 「日本におけるフランス——マチネ・ポエティク論——」 pp219-241

ジャロスラフ・プルセック 「中国と西欧における歴史と叙事詩——人間の歴史を理解する相異なる方法にかんする研究——」

『ディオゲネス』河出書房 第2号 1967年12月30日 pp90-109

【1968年】

「パリ・五月の記録——ソルボンヌの内庭より——」

『展望』筑摩書房 第116号 1968年8月1日 pp118-144

○『核時代と人間』

雄渾社 1968年9月5日 坂田昌一責任編集 「〈その二〉あるフランス青年の苦悩——アンリ・マルタンの手紙——」 pp199-218

○スタンダール『スタンダール全集 5 アルマンズ 中短編集』

人文書院 1968年12月20日 桑原武夫/生島遼一編 「ユダヤ人(フィリッポ・エブレオ)」 pp392-408/「フィリベール・レスカル——パリにおけるある金持の若者の生活の素描——」 pp427-430 (1977年9月1日に新装版として人文書院より再刊)

【1970年】

○スタンダール『スタンダール全集 11 評伝集』

人文書院 1970年6月10日 桑原武夫/生島遼一編 「解説 『ナポレオン伝』の作者としてのスタンダール」 ppi-xxii/「ナポレオンの生涯にかんする覚書」 pp1-211 (1978年3月1日に新装版として人文書院より再刊)

○『ルソー論集』

岩波書店 1970年8月29日 桑原武夫編 「七 ルソーにおける革命概念と革命志向」 pp195-256

◎ルイ・アルチュセール『レーニンと哲学』

人文書院 1970年9月30日 「ルイ・アルチュセールと哲学の復権——解説にかえて——」

pp139-157

「ルイ・アルチュセールについて—フランスの思想状況にかんする私的なレポート (1) —」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第304号 1970年10月25日 pp19-30

ルイ・アルチュセール「革命の武器としての哲学——八つの質問にたいする答——」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第304号 1970年10月25日 pp31-39

「五月の記憶——一九六七年 フランス——」

『人間と科学』ひえい書房 第3号 1970年11月2日 pp5-22

『《シンポジウム》五月革命とフランス社会』

『人間と科学』ひえい書房 第3号 1970年11月2日 pp23-40 樋口謹一 / 横山卓雄 / 西川長夫 / 奥村功著

【1971年】

「現代文芸論を担当して」

『71 学園通信』立命館大学教学部 1971年 p22

ジャン・シェノー「東洋における平等主義とユートピアの伝統」

『ディオゲネス』河出書房 第5号 1971年3月30日 pp24-46

「アンリ・ルフェーヴルについて—フランスの思想状況にかんする私的なレポート (2) —」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第310号 1971年4月25日 pp28-47

「参考文献」

『筑摩世界文学大系 7 第27巻付録』筑摩書房 1971年6月 pp6-7 (『筑摩世界文学大系27スタンダード』筑摩書房 1971年6月15日 付録)

「サルトルからアルチュセールへ (上) ——マルクス主義とヒューマニズム——」

『思想』岩波書店 No.566 1971年8月5日 pp14-30

「サルトルからアルチュセールへ (下) ——マルクス主義とヒューマニズム——」

『思想』岩波書店 No.567 1971年9月5日 pp104-117

○ルイズ・ミッシェル『パリ・コミューン 上 —女性革命家の手記』

人文書院 1971年10月15日 天羽均 / 西川長夫訳 「解説=ルイズ・ミッシェルとパリ・コミューン」 pp241-258

【1972年】

○ルイズ・ミッシェル『パリ・コミューン 下 —女性革命家の手記』

人文書院 1972年3月1日 天羽均 / 西川長夫訳 「訳者あとがき」 p275 (共著)

ルイ・アルチュセール「イデオロギーと国家のイデオロギー装置 (上) ——探求のためのノート——」

『思想』岩波書店 No.577 1972年7月5日 pp114-136

ルイ・アルチュセール「イデオロギーと国家のイデオロギー装置 (下) ——探求のためのノート——」

『思想』岩波書店 No.578 1972年8月5日 pp126-146

【1973年】

「ボナパルティズム概念の再検討」

『思想』岩波書店 No.583 1973年1月5日 pp1-28

「誌上シンポジウム 孤独な疎外者の願望」

『季刊 創造の世界』小学館 第11号 1973年7月1日 pp22-39 湯川秀樹 / 市川亀久彌 / 福永光司 / 西川長夫 / 樋口謹一著

○スタンダール『スタンダール全集 10 文学論集』

人文書院 1973年7月10日 桑原武夫 / 生島遼一編 「ラシーヌとシェイクスピア」pp1-163(島田尚一 / 西川長夫訳) / 「文学日記抄」pp165-256 (1978年2月1日に新装版として人文書院より再刊)

【1974年】

「ボードレールとプルードン——形成期における「科学的」社会主義と「現代」文学——」

『思想』岩波書店 No.598 1974年4月5日 pp47-69

○ルイ・アルチュセール『政治と歴史 モンテスキュー・ルソー・ヘーゲルとマルクス』

紀伊國屋書店 1974年4月30日 西川長夫 / 阪上孝訳 「訳者あとがき」pp247-250 (共著)

○『プルードン研究』

岩波書店 1974年9月30日 河野健二編 「IV 反国家主義の思想と論理——プルードンとボナパルティズム——」pp90-142 / 「プルードン著作解題 19 一二月二日のクーデタによって証明された社会革命 (一八五二)」pp373-374 / 「29 連合とイタリアにおける統一 (一八六二)」pp382-383 / 「31 宣誓した民主主義者と宣誓拒否者 (一八六三)」p384 / 「32 一八一五年の条約はもはや存在しないか。——未来の国際会議の議定書 (一八六三)」pp384-385 / 「33 イタリア統一にかんする新たな考察 (一八六四)」pp385-386 / 「38 フランスとライン (一八六七)」pp390-391

○ルイ・アルチュセール『歴史・階級・人間 ジョン・ルイスへの回答』

福村出版 1974年10月20日 「訳者あとがき」pp213-225

○モーリス・デュヴェルジェ『ヨーロッパの政治構造 人民なき民主主義』

合同出版 1974年10月25日 西川長夫 / 天羽均訳 「訳者あとがき」pp283-289 (共著)

【1975年】

○ルイ・アルチュセール『国家とイデオロギー』

福村出版 1975年1月20日 「訳者あとがき」pp185-192

「思想の秋——ボードレールとフローベール——」

『展望』筑摩書房 第203号 1975年11月1日 pp16-47

「ボナパルティズムとデモクラシー——第二帝政研究の視角から——」

『思想』岩波書店 No.616 1975年10月5日 pp1-26

「ボードレール『悪の花』芸術詩篇註釈」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第40号 1975年12月15日 pp69-189 多田道太郎 /

杉本秀太郎 / 大槻鉄男 / 松本勤 / 西川長夫 / 竹内成明 / 松田清著 「VI LES PHARES」 pp105 - 125 / 「VII LA MUSE MALADE」 pp125 - 129 / 「VIII LA MUSE VÉNALE」 pp129 - 134 / 「XIX LA GÉANTE」 pp173 - 180

【1976年】

○アンリ・ルフェーヴル『革命的ロマン主義』

福村出版 1976年2月20日 西川長夫 / 小西嘉幸訳 「訳者あとがき」 pp257 - 268 (共著)

【1977年】

○ルイ・アルチュセール『科学者のための哲学講義』

福村出版 1977年2月10日 西川長夫 / 阪上孝 / 塩沢由典訳 「訳者あとがき」 pp213 - 214

○アンリ・ルフェーヴル『構造主義をこえて』

福村出版 1977年4月20日 西川長夫 / 中原新吾訳 「訳者あとがき」 pp281 - 297 (共著)

○『フランス・ブルジョア社会の成立——第二帝政期の研究——』

岩波書店 1977年11月24日 河野健二編 「II ボナパルティズムの原理と形態——定義のために——」 pp29 - 63

【1978年】

「仏左翼連合政権への夢と現実——五月は遠く——」

『展望』筑摩書房 第229号 1978年1月1日 pp67 - 86

○『DICTIONNAIRE FRANÇAIS-JAPONAIS CROWN クラウン仏和辞典』

三省堂 1978年2月1日 大槻鉄男 / 佐々木康之 / 多田道太郎 / 西川長夫 / 山田稔編 (1981年・机上版 / 1983年・第2版 / 1989年・第3版 / 1993年・第3版電子ブック版 / 1995年・第4版 / 2001年・第5版 / 2003年・第5版CD付き / 2006年・第6版CD付き刊行、第3版より天羽均が編者に参加、第5版より木内良行・Jean Henri Lamareが編者に参加、第6版より天羽 / 佐々木 / 西川 / 山田 / Lamare の5名で編集)

「スタンダールの晩年——冬のイタリア紀行——」

『展望』筑摩書房 第231号 1978年3月1日 pp104 - 128

「75-77, 滞仏雑感」

『日仏歴史学会会報』日仏歴史学会 No.3 1978年3月31日 pp4 - 6

「現代世界の思想家たち 39 ルフェーヴル」

『東京大学新聞』東京大学新聞社 第1160号 1978年4月10日 p6

「歴史研究の方法と文学」

『歴史学研究』青木書店 No.457 1978年6月15日 pp44 - 55

「フランスに滞在して 老人たち その人生と文明」

『78立命館大学学園通信』立命館大学 1978年6月30日 pp30 - 31

「旅の思想——森有正における「日本回帰」について——」

『展望』筑摩書房 第236号 1978年8月1日 pp147 - 171

◎ルイ・アルチュセール『自己批判 マルクス主義と階級闘争』

福村出版 1978年10月20日 「訳者あとがき」 pp182-192

「歴史叙述と文学叙述——叙述の理論のために——」

『歴史学研究』青木書店 No.463 1978年12月15日 pp1-16

【1979年】

○『ルソー 著作と思想』

有斐閣 1979年2月25日 吉澤昇/西川長夫/宮島喬/原好男/海老澤敏著 「はじめに」 ppi-iii (共著) / 「Ⅲ 新エロイズ」 pp63-107/ 「参考文献 Ⅲエロイズ」 ppvi-vii (共著)

「ボードレール『悪の花』サバチエ詩篇註釈」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第46号 1979年3月31日 pp1-73 多田道太郎/杉本秀太郎/大槻鉄男/西川長夫/松本勤/竹内成明/松田清著 「XLVII HARMONIE DU SOIR」 pp39-58

○ジャン=ジャック・ルソー『ルソー全集 第八巻』

白水社 1979年5月24日 西川長夫/川合清隆/戸部松実/永見文雄訳 「演劇に関するダランベール氏への手紙」 pp9-179/ 「付録——ダランベールによる「ジュネーヴ」の項目(『百科全書』第七卷五七八頁)」 pp179-189/ 「解説」 pp552-563

「フランス・ファシズムの一視点——ドリュ・ラ・ロッシュェルの「ファシスト社会主義」について——」

『思想』岩波書店 No.661 1979年7月5日 pp78-104

「胸うつ—哲学者の覚悟 にこやかなスターリニズムを批判」

『図書新聞』株式会社図書新聞 通巻1484号 1979年8月11日 p4 (ルイ・アルチュセール『共産党のなかでこれ以上続いてはならないこと』新評論 1979年への書評)

「河上肇の『自叙伝』——河上肇における「没落」と「文学」——」

『思想』岩波書店 No.664 1979年10月5日 pp19-44

「左翼神話の崩壊とドリュ・ラ・ロッシュェルの復権」

『京都大学新聞』京都大学新聞社 第1807号 1979年10月16日 p3

「スタンダールの遺書」

『季刊 創造の世界』小学館 第32号 1979年11月1日 pp56-83

「シンポジウム 文学作品と実生活の間」

『季刊 創造の世界』小学館 第32号 1979年11月1日 pp84-97 梅原猛/河合雅雄/作田啓一/志貴春彦/西川長夫/松本勤著

○『資料 フランス初期社会主義——二月革命とその思想——』

平凡社 1979年11月20日 河野健二編 フェリシテ=ロベール・ド・ラムネー 「3 人民の過去と未来について」 pp107-123 (翻訳)

「フランス近代絵画の時代背景」

『視る 京都国立近代美術館ニュース』京都国立近代美術館 150号 1979年12月1日 pp2-

【1980年】

「芸術・スト・テロ… 「未来社会への暗い予感」 思う——国際スタンダード学会に出席して——盛りだくさんな `ミラノの春。」

『朝日新聞 夕刊』朝日新聞大阪本社 35541号 1980年6月14日 p5

○『第1回日ソ学術シンポジウム報告集 戦後日本の社会構造の変化』

立命館大学人文科学研究所 1980年6月20日 第1回日ソ学術シンポジウム報告集編集委員会編 「戦後日本の社会意識の変化——1960年代の日常生活・風俗・文学を中心に——」 pp263-281

○『フランス六章 フランス文化の伝統と革新』

有斐閣 1980年6月30日 饗庭孝男編 「第II章 フランスの明晰とは何か 言語と精神」 pp25-74

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.1 1980年7月 pp20-22

○『ヨーロッパ-1930年代』

岩波書店 1980年8月13日 河野健二編 「II 「三〇年代精神」と文学——ドリュ・ラ・ロッシュェルを中心に——」 pp24-78

「桑原先生と戦後世代」

『桑原武夫集 月報9』岩波書店 1980年12月 pp6-9 (『桑原武夫集9』岩波書店 1980年12月18日 付録)

「遺書小説としての『アルマンズ』」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第424-426号 1980年12月25日 pp44-79

【1981年】

「ボードレール『悪の花』マリー・ドブラン詩篇註釈」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第49号 1981年2月28日 pp85-191 多田道太郎 / 杉本秀太郎 / 竹内成明 / 西川長夫 / 松本勤 / 湯浅康正著 「LIII L' INVITATION AU VOYAGE」 pp120-153

◎『スタンダードの遺書』

白水社 1981年3月25日

「ボードレール『悪の花』その他の女性詩篇註釈」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第50号 1981年3月31日 pp191-262 多田道太郎 / 杉本秀太郎 / 竹内成明 / 西川長夫 / 松本勤 / 湯浅康正 / 天野史郎著 「LXI A UNE DAME CRÉOLE」 pp224-239

「「無条件降伏」論争——江藤淳における「戦後」と「日本回帰」〔「戦後価値と戦後文学」①〕」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.3 1981年4月 pp1-22

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.3 1981年4月 pp29-30

「戦後価値」の再検討」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.4 1981年6月 pp29-34

◎『ミラノの人スタンダード』

小学館 1981年12月5日(小学館創造選書40)

「三つの観点からの考察 マルクス、エンゲルスの革命理論の展開が実証的にたどられる 淡路憲治著 西欧革命とマルクス、エンゲルス」

『週刊読書人』株式会社読書人 第1412号 1981年12月21日 p7

【1982年】

○『STENDHAL E MILANO』(2冊)

FIRENZE LEO S. OLSCHKI 1982年 Congrès international stendhalien 編 「MILAN, L' EPITAPHE ET LES TESTAMENTS DE STENDHAL」 pp491-499

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.6 1982年2月 p14

「マルクス、エンゲルスの革命理論とボナパルティズム論——淡路憲治氏の所説(『西欧革命とマルクス、エンゲルス』にこたえて——)」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第439-441号 1982年3月20日 pp457-480

「ボードレール『悪の花』憂鬱詩篇註釈」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第52号 1982年3月31日 pp51-222 多田道太郎 / 杉本秀太郎 / 竹内成明 / 西川長夫 / 松本勤 / 宇佐美斉 / 湯浅康正 / 天野史郎著 「LXVIII LA PIPE」 pp75-82/ 「LXXIV LA CLOCHE FÊLÉE」 pp116-124/ 「LXXIX OBSESSION」 pp156-165

「批評と紹介『黎明期のフェミニズム』L・アドレール 加藤節子, 杉村和子訳 革命をくぐりたくましく生きるフランス女性群像」

『朝日ジャーナル』朝日新聞社 第24巻第18号 1982年4月30日 pp69-71

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.7 1982年7月 p13

「ナポレオン伝説とロマン主義」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第446・447号 1982年9月20日 pp97-145

○ジャン=ジャック・ルソー 『ルソー全集 第七巻』

白水社 1982年10月25日 樋口謹一 / 松田清 / 西川長夫訳 「ジュネーヴ市民ジャン=ジャック・ルソーからパリ大司教クリストフ・ド・ボーモンへの手紙」 pp437-546/ 「付録 ジュネーヴ市民J = J・ルソー著『エミール, あるいは教育について』と題する書物の論難を内容とするパリ大司教猥下の教書」 pp547-560/ 「解説」 pp583-588

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.8 1982年11月 p20

「後記」

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.9 1982年11月 pp17-19

【1983年】

〔後記〕

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.10 1983年2月 p19

〔サルトルとアルチュセール——マルクス主義とヒューマニズムをめぐって——〕

『別冊経済セミナー マルクス死後100年』日本評論社 1983年2月28日 pp196-201

○『第2回日ソ学術シンポジウム報告集 現代日本の支配構造』

立命館大学人文科学研究所 1983年3月31日 第2回日ソ学術シンポジウム報告集編集委員会編 「日本回帰とネオナショナリズム——支配のイデオロギー——」 pp158-176

〔後記〕

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.11 1983年5月 p13

○『現代フランス生活情景』

有斐閣 1983年8月10日 西川長夫/天羽均/宮島喬/木下賢一/大空博/稲本洋之助著 「序章 フランス個人主義について」 pp1-14/「第1章 若者たち」 pp15-41/「第4章 現代の家族」 pp101-136/「参考文献」 p301-307 (共著) /「後記」 p308

〔後記〕

『総合研究会報』立命館大学人文科学研究所 No.12 1983年11月 p34

【1984年】

○『STENDHAL ET LE ROMANTISME ACTES DU XV^e CONGRÈS INTERNATIONAL STENDHALIEN (MAYENCE 1982)』

Aran (Suisse) EDITIONS DU GRAND-CHENE 1984年 V. DEL LITTO/KURT RINGGER/MECHTHILD ALBERT/CHRISTOF WEIAND 編 「Les arbres et le romantisme chez Stendhal」 pp309-314 (Collection Stendhalienne 25)

◎『フランスの近代とボナパルティズム』

岩波書店 1984年1月24日

〔ボードレール『悪の花』パリ情景詩篇・酒詩篇註釈〕

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第56号 1984年3月15日 pp1-258 多田道太郎/杉本秀太郎/西川長夫/松本勤/宇佐美斉/湯浅康正/竹尾茂樹著 「LXXXVI PAYSAGE」 pp2-14/「XCII LES AVEUGLES」 pp88-94/「XCVIII L'AMOUR DU MENSONGE」 pp141-152/「CIII LE CREPUSCULE DU MATIN」 pp186-197

○『自尊と懷疑——文芸社会学をめざして』

筑摩書房 1984年7月30日 作田啓一/富永茂樹編 「偽名とロマネスク——スタンダールの変名趣味をめぐって」 pp33-70

〔OCCIDENTALISATION ET REACTION JAPONAISE (I)〕

『立命館文学』立命館大学人文学会 第469-471号 1984年9月20日 pp1-62 (全4回連載・後掲)

〔LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE〕

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第63号 1984年10月31日 pp191-225

(全8回連載・後掲)

〔OCCIDENTALISATION ET REACTION JAPONAISE (Ⅱ)〕

『立命館文学』立命館大学人文学会 第472-474号 1984年12月20日 pp33-103

【1985年】

○『LA CRÉATION ROMANESQUE CHEZ STENDHAL Actes du XVI^e Congrès International Stendhalien Paris, 26-29 avril 1983』

GENÈVE LIBRAIRIE DROZ 1985年 V. DEL LITTO 編 「LES PSEUDONYMES ET LA CRÉATION ROMANESQUE CHEZ STENDHAL」 pp83-88 (Collection Stendhalienne 26)

〔LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (2)〕

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第64号 1985年1月31日 pp225-269

〔LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (3)〕

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第65号 1985年4月30日 pp117-150

〔OCCIDENTALISATION ET REACTION JAPONAISE (Ⅲ)〕

『立命館文学』立命館大学人文学会 第481・482号 1985年8月20日 pp1-60

○『1848 国家装置と民衆』

ミネルヴァ書房 1985年9月15日 阪上孝編 「9 一八四八年革命とフランスの農民」 pp287-325

○ジャック・ソレ 『性愛の社会史——近代西欧における愛』

人文書院 1985年10月10日 西川長夫 / 奥村功 / 川久保輝興 / 湯浅康正訳 「訳者あとがき」 pp389-393 (共著)

〔OCCIDENTALISATION ET REACTION JAPONAISE (Ⅳ)〕

『立命館文学』立命館大学人文学会 第483・484号 1985年10月20日 pp1-50

【1986年】

〔ナポレオン伝説—近代を考える視座〕

『季刊 創造の世界』小学館 第57号 1986年2月1日 pp68-85

〔近代の神話 シンポジウム〕

『季刊 創造の世界』小学館 第57号 1986年2月1日 pp86-103 梅原猛 / 河合雅雄 / 河野健二 / 作田啓一 / 富永茂樹 / 西川長夫著

〔Occidentalisation et 《Retour au Japon》〕

『CORPS ÉCRIT』Presses Universitaires de France No.17 1986年3月 pp81-92

○『ボードレール 『悪の花』 註釈 上巻・下巻』(2冊)

京都大学人文科学研究所 1986年3月31日 多田道太郎編 「VI LES PHARES 燈台」 pp75-105 / 「VII LA MUSE MALADE 病気のミューズ」 pp106-111 / 「VIII LA MUSE VÉNALE 身を売るミューズ」 pp112-119 / 「XIX LA GÉANTE 巨大な女」 pp217-226 / 「XXXVIII UN FANTOME まぼろし」 pp362-389 / 「XLVII HARMONIE DU SOIR タベの階調」 pp455-475 / 「LIII L' INVITATION AU VOYAGE 旅への誘い」 pp525-560 / 「LIV L' IRRÉPARABLE 取り返

しのつかぬもの(補註部分) pp575-577/「LXI A UNE DAME CRÉOLE 植民地生れの婦人に」 pp647-662/「LXVIII LA PIPE パイプ」 pp712-720/「LXXIV LA CLOCHE FÊLÉE ひびわれた鐘」 pp758-767/「LXXIX OBSESSION 強迫観念」 pp802-812(以上上巻) /「LXXXVI PAYSAGE 風景」 pp875-888/「XCII LES AVEUGLES 盲人たち」 pp970-976/「XCVIII L'AMOUR DU MENSONGE 虚偽を愛す」 pp1029-1040/「CIII LE CRÉPUSCULE DU MATIN 朝の薄明」 pp1080-1090/「CX UNE MARTYRE 殉教の女」 pp1169-1186/「CXVII L'AMOUR ET LE CRANE キュービッドとどくろ」 pp1250-1257/「あとがき」 p1523(以上下巻)(後に『シャルル・ボードレル「悪の花」註釈(上)・(中)・(下)』(3冊)平凡社 1988年3月27日 多田道太郎編 として再刊)

○『スタンダード研究』

白水社 1986年4月10日 桑原武夫/鈴木昭一郎編 「自伝と小説のあいだ——『アンリ・ブリュラーの生涯』におけるJ. = J. ルソーの問題をめぐる——」 pp147-182

【LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (4)】

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第70号 1986年4月30日 pp53-64

【織田作之助とスタンダード(上)】

『立命館文学』立命館大学人文学会 第490-492号 1986年6月20日 pp49-99

【LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (5)】

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第71号 1986年6月30日 pp93-141

○『戦後価値の再検討』

有斐閣 1986年9月20日 西川長夫/中原章雄編 「序章 「戦後価値」再検討のために」 pp1-30/「第9章 江藤淳における「戦後」と「日本回帰」—無条件降伏論争をめぐる—」 pp210-234(『講座現代日本社会の構造変化⑥』)

【織田作之助とスタンダード(下)】

『立命館文学』立命館大学人文学会 第493-495号 1986年9月20日 pp1-58

【織田作之助とスタンダード,あるいは京都の織田作之助について】

『仏文研究』京都大学フランス語学フランス文学研究会 第17号 1986年10月1日 pp119-130

【LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (6)】

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第73号 1986年10月31日 pp97-131

○『海外広報文庫・1——フランス』

海外広報協会 1986年11月30日 海外広報文庫編集部編 「フランス人に日本語を教えて」 pp16-25

【1987年】

【織田作之助とスタンダード はびこる権威主義に我慢ならず】

『毎日新聞 夕刊』毎日新聞東京本社 第39828号 1987年3月7日 p4

【LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (7)】

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第75号 1987年3月31日 pp33-71

「LE ROMAN JAPONAIS DE L'APRES-GUERRE (8)」

『外国文学研究』立命館大学外国語科連絡協議会 第76号 1987年5月31日 pp43-80

「国家とナショナリズムをめぐる三つの断章——フランス革命の消滅—— (1)」

『歴史学研究』青木書店 No.569 1987年7月15日 pp35-36 (全3回連載・後掲)

「国家とナショナリズムをめぐる三つの断章——モンリオール・未来都市の夢—— (2)」

『歴史学研究』青木書店 No.570 1987年8月15日 pp30-31

「国家とナショナリズムをめぐる三つの断章——日本回帰とネオ・ナショナリズム—— (3)」

『歴史学研究』青木書店 No.571 1987年9月15日 pp33-34

○ベアトリス・ディディエ『日記論』

松籟社 1987年9月21日 西川長夫/後平隆訳 「訳者あとがき」 pp249-254

【1988年】

「解説」

『野間宏作品集2』岩波書店 1988年2月8日 pp493-506

○『日本大百科全書 20』

小学館 1988年3月1日 「文化」 pp588-590 (「フランス」の項目のうち)

○『ボードレール 詩の冥府』

筑摩書房 1988年3月22日 多田道太郎編 「群集の発見」 pp97-164

◎『Le roman japonais depuis 1945』

Presses Universitaires de France 1988年7月

◎『日本の戦後小説—廃墟の光』

岩波書店 1988年8月30日

○『80年代日本の危機の構造 下』

法律文化社 1988年11月30日 高内俊一/奥地正/山下健次/真田是/中原章雄編 「第IV篇 文化・イデオロギーにおける危機 第2章 三島由紀夫における日本回帰」 pp271-296

【1989年】

「言論の自由は保証されているか——谷沢永一「問題の書」に答える」

『中央公論』中央公論社 第104年第3号 1989年3月1日 pp264-265

○『正義論の諸相』

法律文化社 1989年5月10日 寺崎俊輔/塚崎智/塩出彰編 「第9章 ルソー——正義・革命・国家——」 pp140-159

○『ロマン主義の比較研究』

有斐閣 1989年5月20日 西川長夫/松宮秀治/末川清編 「まえがき」 pp1-3 (共著) / 「第1章 ロマン主義を考える三つの視点」 pp2-41

「日記論」

『文学』岩波書店 第57巻第6号 1989年6月10日 pp1-8

○『資料 フランス革命』

岩波書店 1989年6月28日 河野健二編 「10 宣戦講話について(1) ミラボー(1)(一七九〇年五月二〇日)」 pp116-121/ 「(3) ミラボー (2) (一七九〇年五月二二日)」 pp127-134/ 「23 ミラボー ルイー六世への手紙(一七九〇年五月一〇日)」 pp223-225/ 「72 言語統一」 pp480-495/ 「82 ナポレオンの登場」 pp552-559/ 「84 ナポレオン軍隊への布告(一七九八年六月二二日)」 pp562-564/ 「86 ブリュームール八日のクーデタ」 pp569-579 (全て翻訳)
『特集対談 革命がナポレオンをつくった フランス革命とナポレオン』
『歴史読本ワールド』新人物往来社 第34巻第14号 1989年7月5日 pp21-35 河野健二/西川長夫著(『歴史読本』特別増刊号)

○『群れの風景 is 別冊』

ポーラ文化研究所 1989年9月30日 山内直樹/村松恭子/川崎万里編 「近代の群れ シャルル・ボードレーと萩原朔太郎の「群衆」」 pp170-207

『革命二〇〇年のパリ, そして日本』

『大学時報』日本私立大学連盟 第38巻第209号 1989年11月20日 pp50-53

『Quelques Réflexions sur l'Historiographie Japonaise de la Révolution Française——L'Etat-Nation et son idéologie』

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 2巻3号 1989年12月19日 pp7-12

【1990年】

○『L'IMAGE DE LA REVOLUTION FRANÇAISE Communications présentées lors du Congrès Mondial pour le Bicentenaire de la Révolution SORBONNE, PARIS, 6-12 JUILLET 1989 Volume II』

PERGAMON PRESS 1990年 MICHEL VOVELLE 編 「QUELQUES REFLEXIONS SUR L'HISTORIOGRAPHIE JAPONAISE DE LA REVOLUTION FRANCAISE —— L' ETAT - NATION ET SON IDEOLOGIE」 pp1268-1272

『フランス革命のとらえかた——革命200周年世界学会を手がかりに』

『世界史のしおり』帝国書院 '90/47号 1990年1月10日 pp10-12

『フランス革命と明治維新——国民統合の観点から——』

『研究所報』立命館大学国際言語文化研究所 第2号 1990年1月30日 pp4-5

『フランス革命と国民統合——比較史の観点から』

『思想』岩波書店 No.789 1990年3月5日 pp119-129

『フランス革命の変容』

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 1巻2号 1990年3月20日 pp1-24

『L'illégitimité romanesque dans 《la Chartreuse de Parme》』

『STENDHAL CLUB』Stendhal Club/Grenoble No.127 1990年4月15日 pp268-276

『フランス革命の功罪 現代において革命を語ることの困難について』

『世界史のしおり』帝国書院 '90/50号 1990年9月10日 pp6-7

「国民国家と軍隊の役割 ナポレオンを登場させた土壌」

『週刊朝日百科 世界の歴史』朝日新聞社 97 (20巻B/通巻768号) 1990年10月7日
ppB632-B636 (18世紀の世界3 焦点 革命と反乱)

「**La Révolution Française et l'Unité Nationale—Une étude historique comparative**」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 3巻3号 1990年12月19日 pp89-106

【1991年】

「近代日本における文化受容の諸問題——その基礎的考察——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 2巻5・6合併号 1991年3月20日
pp23-56

○『フランス・ロマン主義と現代』

筑摩書房 1991年3月30日 宇佐美斉編 「フランス革命とロマン主義」 pp77-94

○『**grammaire pratique du français** 初級フランス語文法』

朝日出版社 1991年4月1日 天羽均/佐々木康之/西川長夫/松本勤著 (1995年/1997年
/2000年/2002年/2004年/2007年に改訂版刊行)

「フランス革命と国民統合——社会史と国家論の接点を求めて I」

『JUSTITIA』比較法制研究所 第2号 1991年4月20日 pp199-222 (近代社会史研究会での
問題提起)

「シンポジウム 外国から見た現代日本文学」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 3巻2号 1991年9月20日 pp1-51
蔡曉軍/ユルゲン・ベルント/アレキサンダー・ドーリン/西川長夫著

「生島遼一先生 追悼」

『海燕』福武書店 第10巻第10号 1991年10月1日 pp18-21

A.L. クローバー/クライド・クラックホーン 「「文化」という言葉の歴史」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 4巻2号 1991年10月19日 pp72-142
(監訳/「訳者あとがき」 pp140-142 を担当)

「**Modernisation et Bonapartisme en France**」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 4巻3号 1991年12月19日 pp88-93

【1992年】

○『**LA RÉVOLUTION FRANÇAISE ET LA LITTÉRATURE**』

PRESES UNIVERSITAIRES DE KYOTO 1992年 Hisayasu NAKAGAWA 編

「LA RÉVOLUTION FRANÇAISE REVÉCUE PAR STENDHAL」 pp207-215

◎『国境の越え方——比較文化論序説』

筑摩書房 1992年1月25日

「フランス革命と国民統合——社会史と国家論の接点を求めて——討論——」

『JUSTITIA』比較法制研究所 第3号 1992年2月10日 pp300-320(共著/近代社会史研究会)

○『STENDHAL, PARIS ET LE MIRAGE ITALIEN』

Bibliothèque historique de la Ville de Paris 1992年3月 M. V. Del Litto/M. J. Dérens/
Délégation aux célébrations nationales 編 「CONCEPT DE CIVILISATION ET MIRAGE ITALIEN
GUIZOT ET STENDHAL」 pp81-96

「国民 (Nation) 再考——フランス革命における国民創出をめぐる——」

『人文学報』京都大学人文科学研究所 第70号 1992年3月31日 pp1-22

「人種・民族問題と日本人」

『高校通信 東書 現代社会 / 倫理 / 政治・経済』東京書籍 No.318 1992年10月1日 pp1-3

「国民統合と文化変容—第二期プロジェクト研究の歴史的理論的枠組のために—」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 4巻1号 1992年10月20日 pp1-32

【1993年】

◎ジュゼッペ・ピントルノ編『スタンダード スカラ座にて』

音楽之友社 1993年1月31日 「訳者あとがき」 pp163-168

「比較文化研究会について」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 4巻4号 1993年2月20日 ppi-iii

「第七回 スタンダードとギゾー—スタンダードにおける文明概念をめぐる—」

『スタンダード研究会会報』スタンダード研究会 第3号 1993年3月26日 p6

「国家イデオロギーとしての文明と文化」

『思想』岩波書店 No.827 1993年5月5日 pp4-33

「スタンダードとフランス革命・序—再び生きられた革命」

『立命館産業社会学論集』立命館大学産業社会学会 第29巻第1号 1993年6月10日 pp73-87

「新しい文化理論の模索—静態的モデルから動態的モデルへ—」

『比較文化 比較文化研究会会報』立命館大学国際言語文化研究所事務室 第7号 1993年7月7日 pp8-15

「帰航日程」

『17・18世紀大旅行記叢書 月報9』岩波書店 1993年8月 pp1-5 (『17・18世紀大旅行記叢書5 ムガル帝国誌』岩波書店 1993年8月10日 付録)

「『米欧回覧実記』と「脱亜入欧」—田中彰・高田誠二編著『『米欧回覧実記』の学際的研究』(北海道大学図書刊行会, 1993年)をめぐる—」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 5巻1号 1993年10月20日 pp65-100

「Two Interpretations of Japanese Culture」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 5巻2号 1993年11月20日 pp129-150 (Trans. by Mikiko MURATA)

「『日本文化』にかんする二つの解釈」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 6巻3号 1993年12月19日 pp235-251

「特集・明治の知識人が見た世界『米欧回覧実記』の現代性」

『立命館大学学園通信校友版』立命館大学広報課 第26号 1993年12月20日 pp5-6

【1994年】

「『米欧回覧実記』と「観光」」

『京都新聞 朝刊』京都新聞社 第40310号 1994年2月4日 p17

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 5巻4号 1994年2月15日 p1

(特集 総合プロジェクト研究「幕末・明治期の外国文化受容」)

「地球時代の民族=文化理論——静態的文化モデルから動態的文化モデルへ——」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 6巻4号 1994年3月19日 pp158-176

「とりあえず二つのことを」

『研究所報』立命館大学国際言語文化研究所 第7号 1994年3月31日 p1

○『比較文化キーワード①グローバル時代を読み解く 75の鍵』

サイマル出版会 1994年4月 竹内実/西川長夫編 「新しい文化モデルの模索——プロローグ」
pp7-18/「29 人種——メラニン色素/優劣/社会構造」pp190-192

○『比較文化キーワード②グローバル時代を読み解く 75の鍵』

サイマル出版会 1994年4月 竹内実/西川長夫編 「57 文明と文化——イデオロギー性/対
抗関係/翻訳語」pp128-143/「64 民族——スターリン/フィクション/日本人と日本国」
pp195-199

○『国民国家を問う』

青木書店 1994年5月15日 歴史学研究会編 「Ⅱ 一八世紀 フランス」pp24-43

○ルイ・アルチュセール『マルクスのために』

平凡社 1994年6月15日 河野健二/田村俣/西川長夫訳 (平凡社ライブラリー 61)

ベネディクト・アンダーソン「『想像の共同体』[第2版の「序文」と新たに追加された2つの
章[第10章国勢調査, 地図, 博物館・第11章記憶と忘却]]」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 7巻2号 1994年10月19日 pp105-147

(監訳/「解題」pp105-108 を担当)

「新しい文化モデルの模索——世界システムと文明/文化の概念をめぐって——〔国際関係を考
える——第3回〕」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 7巻2号 1994年10月19日 pp182-191

「《書評》国民崇拜の祭儀と神学——ゲオルグ・L・モッセ『大衆の国民化——ナチズムに至る政
治シンボルと大衆文化』——」

『思想』岩波書店 No.845 1994年11月5日 pp245-255

「書籍礼賛 生島遼一・桑原武夫訳 スタンダール「赤と黒」」

『京都新聞 夕刊』京都新聞社 第40602号 1994年12月3日 p5

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 6巻3号 1994年12月20日 ppi-ii
(特集I 総合プロジェクト研究「幕末・明治期の外国文化受容」公開講演会：「明治」再考)

「〈討論〉」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 6巻3号 1994年12月20日 pp101-111 共著(シンポジウム：「形成期の国民国家における統合と排除の問題をめぐって」)

「私のゼミ自慢 国際関係学の脱構築と再構築をめざすゲリラ戦」

『AERA Mook 国際関係学がわかる。』朝日新聞社アエラ発行室 Number5 1994年12月20日 p133

【1995年】

○『『米欧回覧実記』を読む—1870年代の世界と日本—』

法律文化社 1995年3月20日 西川長夫/松宮秀治編 「はじめに」pp1-12/「第14章 統合されたヨーロッパ—ヨーロッパ総論—」pp339-369/「第15章 アジアと世界の再発見」pp371-401

「フランス革命とヨーロッパ統合—あいさつに代えて」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 6巻5・6合併号 1995年3月20日 ppi-ix (特集I ヨーロッパ統合と文化・民族問題)

○『幕末・明治期の国民国家形成と文化変容』

新曜社 1995年3月31日 西川長夫/松宮秀治編 「まえがき」ppi-ix (共著)/「序 日本型国民国家の形成—比較史的観点から—」pp3-42

「文学のひろば 戦後五〇年とある非国民のつぶやき」

『文学』岩波書店 第6巻第2号 1995年4月10日 pp92-94

「人類学的な思考に関するノート」

『比較文化 比較文化研究会会報』立命館大学国際言語文化研究所事務局 第9号 1995年4月20日 pp4-7

「『国民国家』再考—国民国家を克服するとはどういうことなのか」

『新しい歴史学のために』京都民科歴史部会 第218号 1995年5月20日 pp1-10

○フランソワ・フェレ/モナ・オズーフ『フランス革命事典Ⅰ』

みすず書房 1995年6月30日 河野健二/阪上孝/富永茂樹監訳 ドニ・リシェ「クーデタ COUPS D'ÉTAT」pp94-104/アラン・フォレスト「軍隊 ARMÉE」pp670-681 (ドニ・リシェ「クーデタ COUPS D'ÉTAT」の項は後に『フランス革命事典Ⅰ—事件—』みすずライブラリー 1998年6月19日 pp127-142 に再録,アラン・フォレスト「軍隊 ARMÉE」は後に『フランス革命事典Ⅳ—制度—』みすずライブラリー 1999年9月10日 pp124-139 に再録。)

「ナポレオン—近代を演じた名優」

『京都新聞 朝刊第2集』京都新聞社 第40830号 1995年7月27日 p3

○フランソワ・フェレ/モナ・オズーフ『フランス革命事典Ⅱ』

みすず書房 1995年9月30日 河野健二/阪上孝/富永茂樹監訳 ピエール・ノラ「国民

NATION」 pp955-968 (後に『フランス革命事典5——思想I——』みすずライブラリー 2000年3月10日 pp186-205 に再録。)

○『歴史学事典【第3巻 かたちとしるし】』

弘文堂 1995年7月15日 黒田日出男責任編集 「ナポレオン (ボナパルト)」 pp527-529

○『ヨーロッパ統合と文化・民族問題 ポスト国民国家時代の可能性を問う』

人文書院 1995年9月5日 西川長夫 / 宮島喬編 「序 歴史的過程としてのヨーロッパ」 pp11-41

◎『地球時代の民族 = 文化理論 脱「国民文化」のために』

新曜社 1995年10月5日

「思想の言葉 一九九五年八月の幻影,あるいは「国民」という怪物について」

『思想』岩波書店 No.856 1995年10月5日 pp1-3

「日本のミシュレ」

『色川大吉著作集第二巻 月報2』筑摩書房 1995年11月 pp3-5 (『色川大吉著作集2 近代の思想』筑摩書房 1995年11月25日 付録)

【1996年】

○『MULTICULTURAL JAPAN palaeolithic to Postmodern』

Cambridge University Press 1996年 DONALD DENOON/MARK HUDSON/GAVAN McCORMACK/TESSA MORRIS-SUZUKI 編 「15. Two Interpretations of Japanese Culture」 pp245-264 (Mikiko Murata/ Gavan McCormack 訳)

「西川長夫国際言語文化研究所長の挨拶」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 7巻3号 1996年1月20日 pp3-5

(特集I 台湾問題シンポジウム:台湾の現代化をめぐる—台湾植民地統治百年にあたって)

「討論」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 7巻3号 1996年1月20日 pp117-

124 共著(特集II 公開シンポジウム 1870年代の世界と日本—久米邦武編『米欧回覧実記』をめぐって—)

「解説 大岡昇平以前の大岡昇平」

『大岡昇平全集1』筑摩書房 1996年2月22日 pp819-835

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 7巻4号 1996年2月29日 pp1-3

(特集 比較文化研究)

「『暗殺の天使』または安達正勝のフェミニズムについて」

『マラーを殺した女 暗殺の天使シャルロット・コルデ』安達正勝著 中央公論社 1996年3月18日 pp319-328 (中公文庫)

「ギゾーとスタンダール—文明概念をめぐる—」

『政策科学 別冊』立命館大学政策科学会 3巻4号 1996年3月10日 pp121-133

「国民国家を越えて」

『インパクション』インパクト出版会 No.96 1996年3月20日 pp4-23 (松葉祥一によるインタビュー)

「〔書評〕戦後社会思想の転換——河野健二著「近代を問う」を読む——」

『思想』岩波書店 No.864 1996年6月5日 pp21-38

「〔国家理性〕にかんする一考察 ヴァイツェッカー批判」

『江戸の思想』ペリかん社 第4号 1996年7月8日 pp98-105

○『日本小説を読む(上)(下) 日本小説を読む会 会報抄録』(2冊)

1996年8月1日 荒井とよみ/山田稔編・発行「深沢七郎『風流夢譚』——第二十七回報告レジュメ——」pp50-51・会報14・1961年/「大江健三郎『遅れてきた青年』——第三十七回報告レジュメ——」p83・会報24・1962年/「大江健三郎『セヴンティーン』と『性的人間』——第五十三回報告レジュメ——」pp135-136・会報40・1963年/「大江健三郎『みずから我が涙をぬぐいたまう日』——第一六二回報告レジュメ——」p474・会報151・1973年(以上上巻)/「中勘助『銀の匙』——第二四三回 報告レジュメ——」p736・会報232・1981年/「織田作之助の『世相』と戦後——第二八六回報告レジュメ」p875・会報276・1985年/「小島信夫『抱擁家族』——第二九二回報告レジュメ」p893・会報282・1985年/「武田泰淳『ひかりごけ』(一九五四)——第三一四回報告レジュメ」p959・会報304・1987年/「おそろしい所」p1259(以上下巻)(討論部分は省略/原資料にはこれら以外にも多数の著作が有るが未確認/詳細は花森重行氏作成の「主要著作目録」(前掲)を参照)

「広い視野 学問の枠越えた発想 河野健二氏を悼む」

『読売新聞 夕刊』読売新聞大阪本社 第15697号 1996年8月14日 p7

「死せる革命とナポレオンの復讐」

『歴史群像シリーズ47 ナポレオン【皇帝編】フランス革命と英雄伝説』学習研究社 1996年10月1日 pp172-177

「フランスとボナパルティズム」

『歴史群像シリーズ47 ナポレオン【皇帝編】フランス革命と英雄伝説』学習研究社 1996年10月1日 pp182-185

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 8巻1号 1996年11月30日 pp1-2 (特集 比較文化研究)

「コメント」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 8巻1号 1996年11月30日 pp96-98 (Ⅱ シンポジウム 外国における日本研究—アメリカを中心に—)

「討論」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 8巻1号 1996年11月30日 pp99-113 共著(Ⅱ シンポジウム 外国における日本研究—アメリカを中心に—)

○『歴史学事典【第4巻 民衆と変革】』

弘文堂 1996年12月15日 南塚信吾責任編集 「反動」pp482-484/「ボナパルティズム」

pp557-558

【1997年】

「はじめてルイ・アルチュセールに会ったころ」

『現代思想の冒険者たち 月報第10号』講談社 1997年2月10日 pp1-5 (今村仁司『現代思想の冒険者たち第22巻 アルチュセール——認識論的切斷』講談社 1997年2月10日 付録)

「Au delà du Concept de Nation: l'Union européenne ou la Révolution refaite?」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 9巻4号 1997年3月19日 pp115-124

「公開シンポジウム 多文化主義・多言語主義の現在——国民国家の臨界?——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 8巻5・6合併号 1997年3月20日 pp277-337 共著

○『立命館土曜講座 50年史 1946-1996』

立命館大学人文科学研究所 1997年3月31日 立命館大学土曜講座50年史編纂委員会編

「現代における市民的教養と土曜講座」pp104-121 (1996年10月19日第2364回土曜講座/講演記録)

「基調講演 国民国家の形成と自由民権運動」

『自由民権』町田市教育委員会 10号 1997年3月31日 pp3-17 (特集 シンポジウム「民権運動再考」)

「岩波新書を読む 不断に動く世界への感覚——E・H・カー著『歴史とは何か』」

『図書』岩波書店 第575号 1997年4月1日 pp16-17

「国民化と時間病」

『文学』岩波書店 第8巻第2号 1997年4月10日 pp18-25

○『フランス革命の光と闇 革命200年記念シンポジウム (1989-1994年)』

勁草書房 1997年5月1日 札幌日仏協会編 「ナショナリズムとインターナショナリズム——フランス革命期からナポレオンへ——」pp81-87

「漢字文化圏における文化研究——民族・国民・文明・文化の概念をめぐって——」

『文化交流史研究』文化交流史研究会 創刊号 1997年5月10日 pp15-33

○『多言語主義とは何か』

藤原書店 1997年5月30日 三浦信孝編 「15 国民文学の脱構築」pp246-261/「多言語主義を考えるための基本文献75」pp336-340 (共著)

「フランス総選挙 満たされぬ選挙民の投票行動が語るもの」

『読売新聞 夕刊』読売新聞大阪本社 第15991号 1997年6月13日 p12

「ナショナリティ概念を越えて——欧州連合とポスト国民国家時代の可能性——」

『立命館産業社会学論集』立命館大学産業社会学会 第33巻第1号 1997年6月20日 pp133-144

○『多文化主義・多言語主義の現在 カナダ・オーストラリア・そして日本』

人文書院 1997年10月20日 西川長夫/渡辺公三/ガバン・マコーマック編 「多文化主義・多言語主義の現在」pp9-23/「編者あとがき」pp271-273 (共著)

「フランスの一九世紀——あるいはスキャンダルとしてのルイ・ボナパルトについて」

『江戸の思想』ペリかん社 第7号 1997年11月25日 pp135-154

「公開シンポジウムⅠ 言語と多文化社会」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 9巻2号 1997年12月20日 pp7-60 大谷泰照/三浦信孝/安田敏明/西川長夫/児玉徳美/大橋克洋/山口幸二著

【1998年】

「シンポジウム「アジアの中の日本・日本の中のアジア」

『立命館大学言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 9巻3号 1998年1月20日 pp237-278 西川長夫/渡辺公三/小木裕文/竹内隆夫/中島隆博/木村一信/山口幸二著 「報告部分」 pp237-257

「立命館大学国際言語文化研究所創設10周年をむかえて」

『NEWS LETTER』立命館大学国際言語文化研究所 NO.1 1998年1月20日 pp1-2 (『NEWS LETTER』 NO.4 1998年4月7日 に抜粋して再掲/『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 11巻1号 1999年6月30日 pp215-216/p224 に再録)

「国民国家と異文化交流——文化交流を妨げるものと促進するものとの関係についての理論的考察——」

『立命館経済学』立命館大学経済学会 第46巻第6号 1998年2月20日 pp73-84

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 9巻4号 1998年2月20日 pp1-3 (特集Ⅰ 比較文化研究)

「1968年5月—消えない言葉」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 9巻4号 1998年2月20日 pp125-168

○『マルクス・カテゴリー事典』

青木書店 1998年3月20日 マルクス・カテゴリー事典編集委員会編 「ボナバルティズム (Bonapartismus, Bonapartism)」 pp511-514

◎『国民国家論の射程 あるいは〈国民〉という怪物について』

柏書房 1998年4月1日

「(解説)「五月革命」と『パロールの奪取』」

『パロールの奪取 新しい文化のために』ミシェル・ド・セルトー著/佐藤和生訳 法政大学出版局 1998年5月1日 pp111-119

「(資料)消えない言葉——パリ、五月の記録」

『パロールの奪取 新しい文化のために』ミシェル・ド・セルトー著/佐藤和生訳 法政大学出版局 1998年5月1日 pp121-161

「多文化主義の観点から見たヨーロッパ統合——地域と移民の問題を中心に——」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 11巻1号 1998年6月19日 pp34-43

○『戦後五〇年をどうみるか(下) 二一世紀への展望のために』

人文書院 1998年7月20日 立命館大学人文科学研究所編 「4 国民国家のゆくえ」 pp380-390/「〈ふたたびパネリストの発言〉/〈パネリストの回答〉」 pp391-412 共著（「シンポジウム2 戦後、の終焉と二一世紀への展望 ——人文・社会科学からの挑戦——」の報告及び質疑応答部分）

「多言語主義」の背景」

『言語』大修館書店 第27巻第8号 1998年8月1日 pp20-27

○『フランス学を学ぶ人のために』

世界思想社 1998年8月10日 田辺保編 「第9章 フランスを知り、フランスを超える——「フランス・イデオロギー」をめぐって——」 pp315-334

「COMMENTARY 21世紀を読む [172] 国境」

『AERA』朝日新聞社 第11巻第35号 1998年9月7日 p57

○『アジアの多文化社会と国民国家』

人文書院 1998年10月5日 西川長夫/山口幸二/渡辺公三編 「序・国民国家とアジアの現在」 pp11-25/「〈報告〉アジアから世界の国民国家を考える」 pp230-251（シンポジウム「アジアの中の日本・日本の中のアジア」の報告部分）

○『日本大百科全書+国語大辞典（Windows版）』

小学館 1998年11月26日 「文化」（「フランス」の項目のうち/『日本大百科全書20』小学館 1988年 の記述を一部改訂）

「ゼミ紹介 西川ゼミ 3, 4回生合同 地球時代の異文化交流」

『立命館大学父母教育後援会だより』立命館大学父母教育後援会 1998年冬号 1998年12月 p19

【1999年】

「現代における「翻訳」の問題——いま仏和辞典を作ることは何を意味するか——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 10巻5・6合併号 1999年2月20日 pp1-21

○『世紀転換期の国際秩序と国民文化の形成』

柏書房 1999年2月28日 西川長夫/渡辺公三編 「序 帝国の形成と国民化」 pp3-48/「あとがき」 pp519-527（共著）

「Problèmes actuels de la 《traduction》 ——De quelle manière concevoir et rédiger de nos jours un dictionnaire français-japonais?——」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 11巻3号 1999年3月19日 pp95-106

「的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』（御茶の水書房・一九九八年・三四〇〇円）」

『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会 第32号 1999年3月30日 pp154-156

「『編集からのお知らせ』比較文化研究会編『比較文化キーワード』（第1巻、第2巻）を格安にてお譲りします。」

『比較文化 比較文化研究会会報』立命館大学国際言語文化研究所事務室 第17号 1999年5月1日 p6

「1-シンポジウム参加者の感想」

『NEWS LETTER』立命館大学国際言語文化研究所 NO.7 1999年5月6日 p4 (『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 11巻1号 1999年6月30日 p232 に掲載)

○リン・ハント『フランス革命と家族ロマンス』

平凡社 1999年6月20日 西川長夫/平野千果子/天野知恵子訳 「訳者あとがき——フランス革命二〇〇年とリン・ハント」 pp367-380

「20世紀をいかに越えるか」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 11巻1号 1999年6月30日 pp3-6 (創設10周年記念国際シンポジウム〈二十一世紀的世界と多言語・多文化主義-周辺からの遠近法〉特集/英訳「The 20th Century: How Do We Get Over It?」Trans.by James W. Hove pp155-158 同号所収)

「全体の総括討議」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 11巻1号 1999年6月30日 pp149-154 西成彦/池内靖子/中村忠男/ギヤン・ブラカーシュ/トリンT. ミンハ/ミリアム・シルバーバーグ/西川長夫/渡辺公三著(創設10周年記念国際シンポジウム〈二十一世紀的世界と多言語・多文化主義-周辺からの遠近法〉特集)

「国際言語文化研究所歴代所長座談会 10年をふりかえって」

『立命館言語文化研究』立命館大学言語文化研究所 11巻1号 1999年6月30日 pp197-210 辻善男/奥村剋三/西川長夫/児玉徳美/高橋秀寿著

「『知識と秩序の結合』をモチーフとして「合理化」と「国民の創出」を問題系に」

『図書新聞』株式会社図書新聞 第2444号 1999年7月3日 p3 (阪上孝『近代的統治の誕生』岩波書店 1999年 の書評)

「The European Integration through Multicultural-Colored Glasses: Issues of Region and Immigration in the EU」

『JCAS Symposium Series』国立民族学博物館 No.8 1999年7月9日 pp265-275 (Trans. by James W. Hove)

「『廃墟と検閲』

『立命館大学国際平和ミュージアムだより』立命館大学国際平和ミュージアム 第7巻第1号 1999年8月24日 pp8-10

「補論 国民国家の余白に」

『KEIO SFC REVIEW』慶應義塾大学湘南藤沢学会 No.5 1999年10月1日 pp87-91

「マルクスは国民国家をどう見ていたか」

『AERA Mook マルクスがわかる。』朝日新聞社 Number53 1999年10月10日 pp38-39

◎『フランスの解体? もうひとつの国民国家論』

人文書院 1999年10月15日

「戦後歴史学と国民国家論」

『歴史学研究』青木書店 No.729 1999年10月25日 pp10-20

「国家論の現在と国民国家の行方——「国民国家論」の立場から——」

『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会 第34号 1999年11月30日 pp56-69

「対談 日本語教育の再構築 第9回 さまざまな文化の形」

『月刊 日本語』株式会社アルク 第12巻第12号 1999年12月1日 pp74-79 西川長夫/田中望著

「多文化主義・多言語主義をアジアから問う」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 11巻3号 1999年12月10日 pp1-14

【2000年】

「世界地図のイデオロギー」

『精選現代文（改訂版）』教育出版株式会社 2000年1月20日 pp190-200 小田切秀雄他編著

「最終講義 フランスの解体？—もうひとつの国民国家論」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 12巻3号 2000年3月19日 pp1-10

○『戦後歴史学再考「国民史」を超えて』

青木書店 2000年6月1日 歴史学研究会編 「戦後歴史学と国民国家論」pp73-121（シリーズ歴史学の現在3）

○『国家を読む』

情況出版 2000年6月2日 情況出版編集部編 「国家論の現在と国民国家の行方「国民国家論」の立場から」pp6-19

「向こう岸からの問いかけ」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻1号 2000年6月15日 pp3-6（連続講座「国民国家と多文化社会」第8シリーズ：向こう岸（ラテン・アメリカ）からの問いかけ）

「コメント：「ハイチ化」と人権宣言」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻1号 2000年6月15日 pp69-71（連続講座「国民国家と多文化社会」第8シリーズ：向こう岸（ラテン・アメリカ）からの問いかけ 第4回）

「問題をいかに深めるか——多文化主義とアイデンティティの問題を中心に——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻1号 2000年6月15日 pp97-102（公開シンポジウム：二十一世紀の世界と多言語・多文化主義—周辺からの遠近法—再論）

○『新マルクス学事典』

弘文堂 2000年6月15日 的場昭弘/内田弘/石塚正英/柴田隆行編 「ギゾー」p104/「ナポレオン三世」pp369-370/「ボナパルティズム」pp474-475/「ルイ＝フィリップ」p528/「ルドリュ＝ロラン」p532

○『20世紀をいかに越えるか 多言語・多文化主義を手がかりにして』

平凡社 2000年6月20日 西川長夫/姜尚中/西成彦編 「序 歴史的徴候としての多言語・多文化主義」pp3-10/「多言語・多文化主義をアジアから問う」pp15-69/「編者からのレスポ

ンス3 二つの世紀転換期の間で」 pp484-494

「多言語文化のなかで——多言語・多文化主義の夢」

『国文学—解釈と教材の研究—』学燈社 第45巻第10号 2000年8月10日 pp51-61

○『占領期の言論・出版と文化—〈プランゲ文庫〉展・シンポジウムの記録』

早稲田大学・立命館大学 2000年8月18日 プランゲ文庫展記録集編集委員会編 「廃墟と検閲」
pp71-77

「公開シンポジウム グローバル化と多言語の共存」

『立命館言語文化研究』立命館国際言語文化研究所 12巻2号 2000年9月30日 pp1-22

小野有五/シュテファン・カイザー/大谷泰照/西川長夫/大橋克洋/児玉徳美/山口幸二著

○『グローバル・ポリティクス——世界の再構造化と新しい政治学』

有信堂高文社 2000年10月15日 小林誠/遠藤誠治編 「9章 多文化主義・多言語主義」
pp197-217

○『政治学事典』

弘文堂 2000年11月15日 猪口孝/大澤真幸/岡沢憲美/山本吉宣/スティーブン・R・リー
ド編 「文化」 pp969-970/「文明」 pp977-978

○『ラテンアメリカからの問いかけ ラス・カサス, 植民地支配からグローバリゼーションまで』
人文書院 2000年11月20日 西川長夫/原毅彦編 「序・「向こう岸」からの問いかけ」 pp13
-40

「多文化主義とアイデンティティ概念をめぐる二, 三の考察—アイデンティティ論のために—」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻3号 2000年11月30日 pp23
-35

「伊藤藤子「イデオロギーとしてのアイデンティティ—1970年代の消費社会に即して」のコメント」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻3号 2000年11月30日 pp153
-154

「花森重行「反帰省小説としての『帰去来』—国木田独歩における「連続」と「驚き」—」のコメント」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 12巻3号 2000年11月30日 p158

【2001年】

◎『増補 国境の越え方 国民国家論序説』

平凡社 2001年2月7日 (平凡社ライブラリー 380)

「日本にとってヨーロッパとは何か」

『学燈』丸善株式会社 第98巻第3号 2001年3月5日 pp24-27

「バルザック論が書けない理由」

『環【歴史・環境・文明】』藤原書店 Vol.5 2001年4月30日 pp42-50

「フランス「革命」史 「革命」から眺めるフランス近・現代史」

『2002年度版 フランス語をモノにするためのカタログ』株式会社アルク 2001年5月21日

pp43-47 (アルク地球人ムック)

「コメント：独立の新しい意味」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 13巻1号 2001年5月31日 pp9-12 (特集 連続講座「国民国家と多文化主義」第9シリーズ：複数の沖繩)

「『グローバル化を読み解くキーワード』の出版について」

『比較文化 比較文化研究会会報』立命館大学国際言語文化研究所事務局 第23号 2001年7月1日 pp1-2

「思想の言葉 国民と非国民のあいだ、あるいは「民族浄化」について」

『思想』岩波書店 No.927 2001年8月5日 pp1-3

「戦後歴史学と国民国家、その後」

『歴史の理論と教育』名古屋歴史科学研究会 第110号 2001年11月1日 pp1-20

「久米邦武編『米欧回覧実記』におけるヨーロッパ像」

『立命館経済学』立命館大学経済学会 第50巻第5号 2001年12月10日 pp66-82

○『普遍性が差異か——共和主義の臨界、フランス』

藤原書店 2001年12月30日 三浦信孝編 「欧州統合と国民国家の行方 共和主義的反動について」 pp111-137

【2002年】

○『**Confluences: Postwar Japan and France**』

Center for Japanese Studies, The University of Michigan 2002年 Doug Slaymaker 編 「France in Japan: An Essay on the Matinée Poétique Group」 pp69-85 (Trans. by Doug Slaymaker)

◎『국민이라는괴물』

소명출판 윤대석訳 2002年1月 (『国民国家論の射程』柏書房 1998年 の韓国語版)

「姜尚中氏の新著三冊を読む 危機的な時代の最前線で『ナショナリズム』『東北アジア共同の家を目指して』『ポストコロニアリズム』(編)」

『週刊読書人』株式会社読書人 第2422号 2002年2月1日 p1

「戦争と文学——文学者たちの十二月八日をめぐって——」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第573号 2002年2月20日 pp14-34

「歴博対談第41回 国民国家の文化の現在」

『歴博』国立歴史民俗博物館 第111号 2002年3月20日 pp20-25 西川長夫 / 篠原徹著

○『バルザックを読む II 評論篇』

藤原書店 2002年5月30日 鹿島茂 / 山田登世子編 「バルザック論が書けない理由」 pp161-174

「マルチニックから沖繩へ」

『岩波講座 近代日本の文化史1 月報5』岩波書店 2002年5月 pp1-3 (『岩波講座 近代日本の文化史1 近代世界の形成 19世紀世界1』岩波書店 2002年5月30日 付録)

「民族という錯乱」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 14巻1号 2002年5月31日 pp95-

103

◎『戦争の世紀を越えて——グローバル化時代の国家・歴史・民族』

平凡社 2002年7月24日

「第二部解説 国民国家の政治文化」

『日本近代精神史の研究』飛鳥井雅道著 京都大学学術出版会 2002年9月10日 pp489-507

○『坂口安吾論集①越境する安吾』

ゆまに書房 2002年9月25日 坂口安吾研究会編 「戦争と文学——文学者たちの十二月八日をめぐって——」 pp14-28

「イアン・ニッシュ編, 麻田貞雄他 訳 欧米からみた岩倉使節団」

『学燈』丸善株式会社 第99巻第10号 2002年10月5日 pp42-45

【2003年】

「甦るソシュール—解題にかえて—」

『一般言語学第三回講義 エミール・コンスタンタンによる講義記録』フェルディナン・ド・ソシュール著 / 相原奈津江・秋津伶訳 エディット・パルク 2003年2月22日 pp285-295

○『複数の沖縄 ディアスポラから希望へ』

人文書院 2003年3月1日 西成彦 / 原毅彦編 「マルチニックから沖縄へ——独立の新しい意味をめぐって——」 pp389-407

「三つのコメント」

『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会 15巻3号 2003年3月19日 pp283-297 (英語・仏語による要約有り / pp298-305)

○『岩倉使節団の再発見』

思文閣出版 2003年3月24日 米欧回覧の会編 「〈質疑その1〉」 pp40-41 / 「『米欧回覧実記』におけるヨーロッパ像」 pp98-104 / 「〈質疑その2〉」 pp105-107

○『ナショナル・アイデンティティ論の現在——現代世界を読み解くために——』

晃洋書房 2003年3月30日 中谷猛 / 川上勉 / 高橋秀寿編 「第2章 グローバル化時代のナショナル・アイデンティティ——アイデンティティ再定義のために——」 pp25-54

○『新しい公共性 そのフロンティア』

有斐閣 2003年3月31日 山口定 / 佐藤春吉 / 中島茂樹 / 小関素明編 「第3章 多文化主義から見た公共性問題——公共性再定義のために」 pp81-106

○『グローバル化を読み解く 88のキーワード』

平凡社 2003年4月23日 西川長夫 / 大空博 / 姫岡とし子 / 夏剛編 「グローバル化のなかで考える——序にかえて——」 ppviii-xxviii / 「文明・文化」 pp242-247 / 「ポストコロニアリズム」 pp248-251 / 「翻訳」 pp252-254 / 「民族」 pp264-267 / 「編者あとがき」 pp283-286 (共著)

○『〈私〉にとっての国民国家論——歴史研究者の井戸端会議——』

日本経済評論社 2003年6月1日 牧原憲夫編 「1 ジェンダー・家族・国民国家」 pp1-84 (共著 / 討論部分) / 「2 個・民衆・国民」 pp103-168 (共著 / 討論部分) / 「3 日本型国民国家と近代天皇制」 pp177-269 (共著 / 討論部分) / 「4 歴史学と「われわれ」」 pp271-345 (共著)

/ 討論部分) / 「三〇年後に再会したら、私たちはなにをしゃべり始めるだろうか」

pp358-359

「戦後文学再考——九月十一日のあとに」

『野間宏の会会報』野間宏の会 No.10 2003年4月 pp12-25

【2004年】

「〈欧州〉考 古代ギリシャから EU まで 中」

『読売新聞 夕刊』読売新聞大阪本社 第18312号 2004年1月5日 p9

「グローバル化と戦争——イラク占領の「日本モデル」について——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 15巻4号 2004年3月15日 pp109-120

「コメント——グローバルなマイノリティー文化と文学的な語り——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 15巻4号 2004年3月15日 pp223-239 西川長夫/ホミ・バーバ著(ホミ・バーバ講演会 グローバル・メジャー—ポスト・コロニアル理論の現在と可能性—)

○ルイ・アルチュセール『政治と歴史 モンテスキュー・ヘーゲルとマルクス』

紀伊國屋書店 2004年6月7日 西川長夫/阪上孝訳 「訳者あとがき [旧版]」pp179-182(共著) / 「新訂版によせて」pp183-187(共著 / 『政治と歴史 モンテスキュー・ルソー・ヘーゲルとマルクス』(前掲)の新訂版)

「歴史を語る 革命 近代的な国家建設への運動」

『読売新聞 夕刊』読売新聞大阪本社 第18599号 2004年10月26日 p3

「李得幸氏への手紙——『国民という怪物』に寄せられた書評「非『国民化』の回路はいかに可能か」に対する応答——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 16巻2号 2004年10月29日 pp157-170

【2005年】

「植民地放棄と植民地忘却——日本の戦後社会と対米従属構造の行方」

『長周新聞』長周新聞社 第6154号 2005年1月11日 p4

「世界地図のイデオロギー」

『精選現代文』教育出版株式会社 2005年1月20日 pp192-202 井口時男/長沼行太郎他編著(『精選現代文(改訂版)』教育出版株式会社 2000年より図版の異同あり/2008年の改訂版にも所収)

○『歴史学事典【第12巻 王と国家】』

弘文堂 2005年3月15日 黒田日出男責任編集 「多民族国家」pp454-456/「ボナバルティズム」p626

「和田葉子シンポジウム エクソフォニー——異言語への欲望」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 16巻4号 2005年3月15日 pp75-

97 多和田葉子 / 西川長夫 / 平田由美 / 和田忠彦 / 西成彦著

【質疑応答】

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 16巻4号 2005年3月15日 pp99-111 共著(多和田葉子シンポジウム エクソフォニー——異言語への欲望)

○ルイ・アルチュセール『再生産について——イデオロギーと国家のイデオロギー諸装置』

平凡社 2005年5月20日 西川長夫 / 伊吹浩一 / 大中一彌 / 今野晃 / 山家歩訳 「訳者解説——再出発のために」 pp436-445

「アルチュセール思想のアクチュアリティ 『再生産について——イデオロギーと国家のイデオロギー諸装置』をめぐって」

『月刊 情況』情況出版 第3期第6巻第7号 2005年8月1日 pp102-132 西川長夫 / 大中一彌 / 今野晃 / 山家歩 / 伊吹浩一著(座談会)

【2006年】

「多文化主義と〈新〉植民地主義」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 17巻3号 2006年2月28日 pp141-147 (英訳「'Multiculturalism and "neo"-colonialism」 Trans. by Noah MCCORMACK pp149-155 同号所収)

「講演記録 〈私文化〉をめぐると アイデンティティ論を中心に」

『国立歴史民俗博物館研究報告』国立歴史民俗博物館 第132集 2006年3月25日 pp357-368

「太宰治における弱者のユートピアについて」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 18巻1号 2006年8月10日 pp21-23

「コメントおよび質疑応答」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 18巻1号 2006年8月10日 pp25-33 共著(春季企画シンポジウム Dazaï.O —太宰治とその生涯をめぐって—)

◎『〈新〉植民地主義論—グローバル化時代の植民地主義を問う』

平凡社 2006年8月15日

◎『국경을 넘는 방법 문화·문명·국민국가』

일조각 한경구 / 이목訳 2006年9月(『増補国境の越え方』平凡社 2001年の韓国語版)

「西川長夫氏に聞く(聞き手=岩崎稔) 植民地主義の現在を問う 西川長夫著『〈新〉植民地主義論』(平凡社)刊行を機に」

『週刊読書人』株式会社読書人 第2655号 2006年9月22日 pp1-2

「書評 林淑美著『昭和イデオロギー 思想としての文学』」

『日本近代文学』日本近代文学会 第75集 2006年11月15日 pp271-274

【2007年】

「全球化过程中的“新”殖民主义现象」

『国外社会科学前沿』上海人民出版社 第10輯 2007年1月 pp133-142 (郭洁敏译)

「畏友長田豊臣教授の総長御退職を祝って」

『立命館文学』立命館大学人文学会 第597号 2007年2月20日 pp167-177

「グローバリゼーションと多文化主義」

『立命館言語文化研究』立命館大学言語文化研究所 18巻3号 2007年2月28日 pp3-5 (英訳「“Globalization and multiculturalism”」. Trans. by Noah MCCORMACK pp7-9 同号所収)

○『グローバル化の過程において—国民国家を越境する公共圏の諸相——「植民地」と「都市」を軸とする比較歴史社会学的研究——』

平成15年度～17年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) 研究成果報告書 2007年3月

小川浩史/番匠健一編 「まえがき」pp1-2/「グローバル化の過程における公共圏の変容と〈新〉植民地主義」pp9-24/「多文化主義と〈新〉植民地主義」pp25-32 (課題番号15330114 研究代表者 西川長夫)

「‘신’ 식민주의에 대하여」

『비평』생각의나무 第14号 2007年3月 pp92-117 (염운옥 한양대교수訳)

「いまなぜ植民地主義が問われるのか——植民地主義論を深めるために——」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 19巻1号 2007年9月30日 pp5-15

「〈新〉植民地主義について」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 19巻1号 2007年9月30日 pp213-227

「アルチュセールのメッセージはいかに受け止められたか」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 19巻2号 2007年11月30日 pp183-190

「歴史のための闘い【近現代史の問い——アラン・コルバン教授を迎えて】」

『環【歴史・環境・文明】』藤原書店 Vol.31 2007年11月30日 pp309-317

【2008年】

「植民地主義と引き揚げ者の問題 1」

『長周新聞』長周新聞社 第6611号 2008年1月9日 p4 (全4回連載, 後掲)

「植民地主義と引き揚げ者の問題 2」

『長周新聞』長周新聞社 第6612号 2008年1月11日 p4

「植民地主義と引き揚げ者の問題 3」

『長周新聞』長周新聞社 第6613号 2008年1月14日 p4

「植民地主義と引き揚げ者の問題 4」

『長周新聞』長周新聞社 第6614号 2008年1月16日 p4

○『グローバル化と文化の横断』

中央大学出版部 2008年3月30日 三浦信孝 / 松本悠子編 「欧化と日本回帰・再論——「戦争」と「戦後」を改めて考える——」 pp41-73

「多文化主義の不正義」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 19巻4号 2008年3月31日 pp3-9 (英訳「The Injustice of Multiculturalism」Trans.by Noah MCCORMACK pp11-17 同号所収)

「立命館大学名誉教授 西川長夫さんに「格差」を問う.4」

『京都新聞』京都新聞社 第45349号 2008年4月27日 p21

「パリの六八年」

『環【歴史・環境・文明】』藤原書店 Vol.33 2008年4月30日 pp96-98

「《討論から》」

『野間宏の会会報』野間宏の会 No.15 2008年5月 pp106-109 共著 (「〈報告〉関西・野間宏をしのぶ集い(第十三回)二〇〇八年四月六日(日)」pp97-113のうち、池田浩士の「[発題①]抄録」に続く討論。)

◎『日本回帰・再論 近代への問い、あるいはナショナルな表象をめぐる闘争』

人文書院 2008年7月20日

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻1号 2008年9月30日 pp281-282 (08年度プロジェクトB4研究報告(1)戦後の農民運動と農村の変容)

○『生存学研究センター報告4 「多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり——コンフリクト/アイデンティティ/異なり/解決?——」』

立命館大学生存学研究センター 2008年10月15日 「招聘講演 差異とアイデンティティのための闘争の先に見えてくるもの——タゴールの反ナショナリズム論とイリイチの「ヴァナキュラーな価値」を手がかりに」 pp309-326 (英訳「Beyond the Struggle for Difference and Identity —— Tagore's Anti-nationalism and Illich's "Vernacular Values"」 pp327-346 Trans.by Noah McCormack 同号所収)

「方法としての旅」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻2号 2008年11月30日 pp137-138 (特集 国際シンポジウム イタリア観の一世紀—旅と知と美—)

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻2号 2008年11月30日 p197(08年度プロジェクトB4研究報告(2)戦後の農民運動と農村の変容)

「文体と生き方の美学貫く 加藤周一先生を悼む」

『京都新聞 朝刊』京都新聞社 第45570号 2008年12月10日 p10

【2009年】

「序文」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻3号 2009年2月28日 pp41-43
(特集 国際シンポジウム グローバル化時代の植民地主義とナショナリズム)

「グローバル化に伴う植民地主義とナショナリズム」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻3号 2009年2月28日 pp47-55
「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻3号 2009年2月28日 pp187
(07年度植民地主義研究会研究報告 歴史の曲がり角に立って—孫歌さんに聞く—)

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻3号 2009年2月28日 pp207
(08年度プロジェクトB4研究報告(3) 戦後の農民運動と農村の変容)

○『**グローバリゼーションと植民地主義**』

人文書院 2009年3月30日 西川長夫 / 高橋秀寿編 「いまなぜ植民地主義が問われるのか——
植民地主義論を深めるために」 pp7-40

「はじめに」

『立命館言語文化研究』立命館大学国際言語文化研究所 20巻4号 2009年3月30日発行予定
(08年度プロジェクトB4研究報告(4) 戦後の農民運動と農村の変容)

【発行年月日 未詳 (奥付記載なし)】

○『**国際関係 基礎演習テキスト**』

立命館大学国際関係学部 基礎演習テキスト編集委員会編 「『日本人論』・『日本文化論』を問
う——この自国への“過剰な”関心はどこから来るか——」 pp157-168

○『**神戸大学国際文化学部第3回国際シンポジウム 越境する文化とヨーロッパ 新たな共生
にむけて 報告書**』

神戸大学国際文化学部 神戸大学国際文化学部第3回国際シンポジウム実行委員会編 「EUと
文化摩擦—地域と移民の問題を中心に—」 pp32-45/「総括質疑」 pp127-141 (共著)

資料の調査・確認に当たって、次の方々には特別の便宜を図って頂いた。ここに記して感謝
申し上げます。

中川成美氏 (立命館大学国際言語文化研究所), 宇治橋奈名子氏 (立命館大学人文社会リサーチ
オフィス), 雨宮幸明氏 (立命館大学大学院文学研究科博士後期課程), 立命館大学図書館サー
ビス課相互利用係, 株式会社帝國書院, 東京書籍株式会社, 株式会社朝日出版社, 神戸大学国
際文化学部事務室, 京都府立図書館, 京都府立総合資料館

(作成 内藤由直)